

2010年(平成22年) 3月31日 水曜日

山梨学院大の米沢知志さん 米沢さんは1月、県内の印刷(22)は、大学4年生を対象にしたアンケートを行い、本年度の就職活動の情勢を分析した。内定率の低迷を背景に、多くの学生に「内定確保」を最終目標とする傾向があった。その結果、企業研究や自己分析がおろそかになり、面接で失敗するという悪循環を招いた学生が少なくなかった。

米沢さんは1月、県内の印刷会社の内定をもらったが、2008年秋から計26社の採用試験を受け、不採用の連続だった。回答で、希望する企業規模につ

企業研究浅く、面接で失敗

「同じように苦労している学生が多く、失敗経験を後輩の学生たちの参考にしてもらおう」と考え、卒業論文のテーマにした。アンケートは1月、同級生の採用試験では筆記より面接が

ほかに、合同企業説明会で知り合った大学4年生27人に行い、インタビューもした。アンケートで、希望する企業規模につ

いては、半数以上が「こだわらない」と回答。会社選びのポイントとしては仕事内容、勤務地、給料、経営理念などの順だった。

山学大生、卒論で就活分析

最大の難関だったとの意見が多かった。「内定獲得を最終目標にしている人が目立ち、面接では『就職して会社で何をしたい』などの質問に答えられなかった人が多かったのではないかと米沢さん。自らの経験も踏まえて「就活が始まると、何をしたいかじっくり考える余裕がなくなる。早い段階から企業を研究、志望動機を明確にすべきだ」と話している。